

蒲郡市男女共同参画情報紙

はばたき

特集●ワーク・ライフ・バランスの

すすめ
〜企業・個人・地域で〜

第27号
2015.3

『家事場のパパデカラ』

(平成26年度 男女共同参画週間キャッチフレーズ)

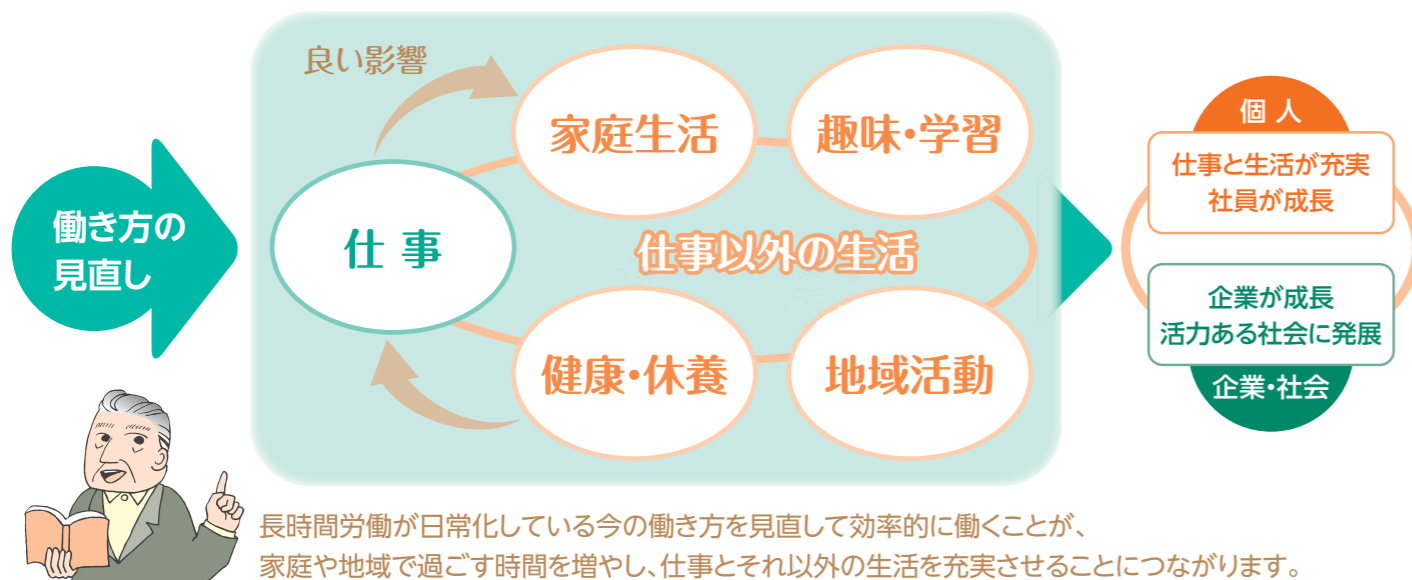
ワーク・ライフ・バランスのすすめ

～企業・個人・地域で～

現代は、仕事に追われ心身ともに疲れきって、仕事と子育ての両立が難しいなど、仕事と生活の間で悩み、問題を抱える人が多く見られます。とりわけ男性の多くに見られる仕事一辺倒の働き方のままでは、個人だけでなく企業や社会全体が持続できなくなるおそれがあります。それを解決するための取組みが、「ワーク・ライフ・バランス」(仕事と生活の調和)の推進です。

「ワーク・ライフ・バランス」とは「仕事」だけでなく「仕事も生活も」大切に過ごす社会を目指すことで、一人ひとりが意欲を持って働きながら、豊かさを実感して暮らせるようになる状態を意味します。仕事と生活の両方が充実することで、働き方にメリハリが生まれ、毎日を健やかに楽しむことができるようになります。

「ワーク・ライフ・バランス」推進のイメージ



「ワーク・ライフ・バランス」を推進すると…

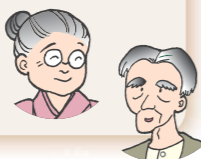
個人にとって

- ⇒長時間労働から解放され、心身へ好影響がもたらされる。
- ⇒仕事と育児・介護などの両立が可能になる。
- ⇒自己啓発や地域での活動に参加しやすくなって、個人の生活が充実する。



地域にとって

- ⇒豊かな経験を持つ人が集まり、地域活動が活性化する。
- ⇒子どもや高齢者を地域全体で見守ることができ、コミュニケーションが強まる。
- ⇒ボランティアなどの地域活動にたくさんの人が参加してくれるようになる。



企業にとって

- ⇒効率化を進めることで生産性や仕事の質が向上し、業績アップが見込まれる。
- ⇒従業員の満足度や仕事に対する意欲が高まる。
- ⇒育児や介護による退職等で従業員の知識や経験を失わずにすむ。
- ⇒長時間労働の減少により、コストが削減される。
- ⇒働きやすい職場環境をアピールすることにより、優秀な人材を確保できる。



男女共同参画講演会

忙しいパパのための 子育てハッピーアドバイス



真生会富山病院心療内科部長
明橋 大二 さん

【プロフィール】
専門は精神病理学、児童思春期精神医療。児童相談所嘱託医、小学校スクールカウンセラー、NHK教育テレビ「となりの子育て」に出演されるなど多方面で活躍中。著書「子育てハッピーアドバイス」はシリーズ累計450万部のベストセラー。

2月11日(水・祝)に「子育てハッピーアドバイス」でお馴染みの明橋先生をお招きして講演会を開催し、男性37名、女性49名の方にご参加いただきました。パパが子育てに関わるとパパのワーク・ライフ・バランスも進み、家族みんながハッピーになるお話をお聴きました。

”自己肯定感”

⇒子どもにとって一番大事なこと。
自己肯定感とは自己評価、自尊感情のことです。自分は大変な必要な人間であり、存在価値があると自分を肯定する感情のこと。

今の子どもは自己肯定感がとても低い

〈自分は価値のある人間だと思う、と答えた高校生の場合〉
日本 36.1% アメリカ 89.1% 中国 87.7%
(平成23年「高校生の心と体の健康に関する調査」日本青少年研究所)

”自己肯定感の高い子”になるには

- 1 スキンシップ、話を真剣に聞く。
- 2 ほめる。できないことより、できていることに注目。他の子ではなく、以前のその子と比較。
- 3 「頑張れ!」より、「頑張ってるね!」
- 4 「ありがとう」と言葉で子どもに伝える。

”パパが子育てをすると…”

- 1 子どもの自己肯定感が高まる。
 - 2 パパがほめてくれると、子どもが社会に出て行くときの勇気になる。
 - 3 パパと身体を使った遊びをすると、身体も丈夫になる。
 - 4 パパにちゃんと叱ってもらえると、ルールを守れるようになる。
- ⇒子育ては夫婦二人で!子育ての大変さを理解し、妻をねぎらうことで夫婦愛が深まる。

参加者の感想・意見

- 自分自身、自己肯定感があまり高くなく、子ども時代を振り返るとあまりほめられずに育った気がする。自分の子には自己肯定感を持ち「自分は存在価値がある」と胸を張って言えるように育てたいと思う。(20歳代男性)
- 妻と講演内容を共有し、今後の夫婦生活に活用したい。非常に勉強になった。(30歳代男性)
- 今の子育てを振り返りながら、今後の子育てについて考えることができた。(20歳代女性)
- 自分たちの時代と子育ての方法が違ってきていると感じた。(60歳代女性)

男女共同参画啓発 川柳・ポスター・習字 入賞作品

蒲郡市では男女共同参画への意識向上と理解促進のために川柳、ポスター及び習字の募集をしたところ、たくさんの応募をいただきました。

川柳は市内外より、711 作品(一般の部 76 作品、小学生の部 311 作品、中学生の部 324 作品)、ポスター・習字は市内小学校 5、6 年生より 304 作品(ポスター 50 作品、習字 254 作品)の応募がありました。選考の結果、各部門で入賞作品が決定し、各部門の入賞者へ賞状と記念品を授与しました。

川柳の部

《一般の部》最優秀賞

見つけよう 違うところより できること

愛知県名古屋市長 中山善富さん

《小学生の部》最優秀賞

「手伝うよ」 ご飯作りに ならぶ背中

愛知県蒲郡市 瀧口颯太さん

《中学生の部》最優秀賞

ゴミは分け 人は分けない 世の中に

愛知県蒲郡市 山口恭平さん

ポスターの部

最優秀賞



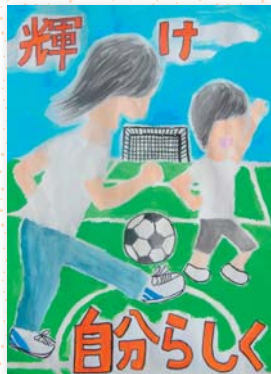
蒲郡南部小学校 和田一真さん

優秀賞



蒲郡南部小学校 荒島彩乃さん

優秀賞



蒲郡南部小学校 遠藤あいなさん

習字の部

最優秀賞



塩津小学校 鳥居七帆さん

優秀賞



竹島小学校 加藤乃愛さん

優秀賞



三谷東小学校 伴 麻彩さん

編集後記 Editor's note

皆さんはどんな人生が理想ですか?

仕事は暮らしを支え、喜びや生きがいをもたらしてくれますが、家事や育児、趣味や学習、地域活動なども充実した生活のためには欠かすことのできない大切な要素です。いろいろな要素を含んだ豊かな人生は個人だけでなく、家族や地域、企業、ひいては社会全体の幸せにつながるのではないのでしょうか。

はばたき 第27号 2015.3

ご意見・ご感想をお寄せ下さい。

発行／蒲郡市 文化スポーツ課
編集／「はばたき」編集委員

〒443-8601 蒲郡市旭町17-1

TEL 0533-66-1167 FAX 0533-66-1199

Eメール bunsपो@city.gamagori.lg.jp